

戦略 4関連 あらゆる人々の暮らしの場の提供

高齢者や子育て世代、障害者などあらゆる人が暮らしやすい場を提供するとともに、ライフスタイルや価値観の多様化に応じて、住み、働き、憩う場が選択できる都市を目指します。



（質の高い居住環境が充実した区部中心部）

国際水準の住宅やサービスアパートメントが建ち並ぶ区部中心部では、外国語対応の医療、教育、子育て支援施設などが整い、質の高い暮らしの場が充実しています。

世界各地からの旅行者はもちろん、地域の住民も歴史的建造物や芸術・文化施設を巡り、きれいな運河でカヌーを楽しみ、水辺沿いのカフェやスポーツ広場で余暇を過ごすなど、成熟した豊かな都会の暮らしを送っています。



(良質な住宅ストックが整った区部周辺部や多摩地域)

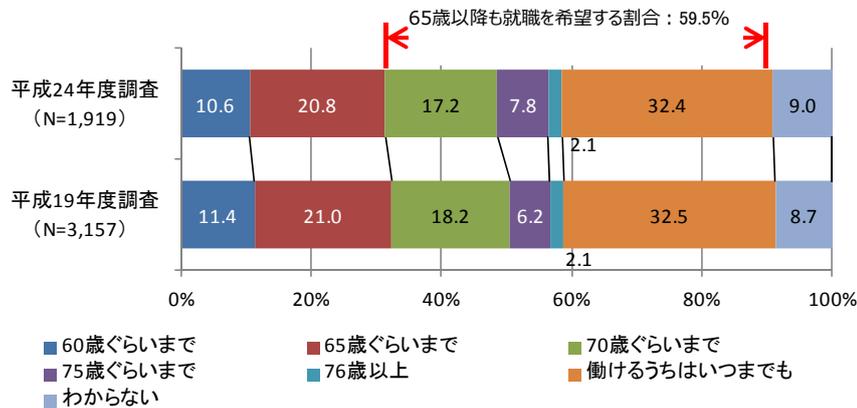
リノベーションや建替えにより良質なストックとして再生された公的住宅は、子育て支援や在宅医療など、生活に必要な機能を備え、多様なライフスタイルに対応できる暮らしの場となっています。

屋外で遊ぶ子供たちを地域で見守るコミュニティの形成が進むとともに、高齢者も気軽にまちでショッピング等を楽しめる環境が充実し、クリエイティブな仕事に従事する人が職住が近接した潤いのある環境で暮らしているなど、誰もが快適でゆとりのある生活を満喫しています。

(現状と将来の見込み等)

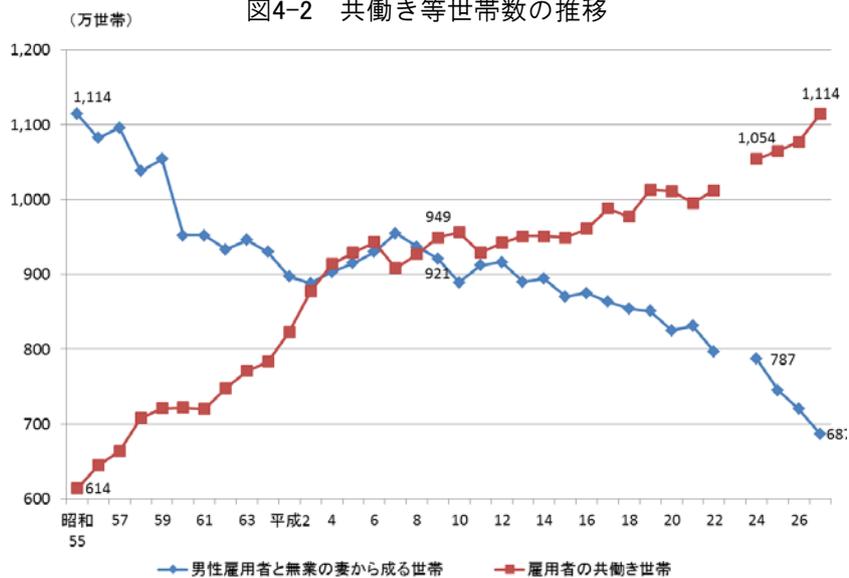
- ・区部では共同住宅の比率が高く、一戸当たりの平均面積や持ち家率は多摩地域を下回る状況です。
- ・高齢になっても働く意欲がある人は多く、共働き世帯も増加しています。(図4-1, 2)
- ・今後も、就労や地域活動への参加を通じて、幅広く社会で活躍するなど、誰もが生きがいを持って暮らせるとともに、安心して出産や子育てをしながら安定して働くことができる環境の形成が求められています。
- ・経済的な価値だけでは測れない「ゆとり」や「質」を重視する生活や様々なモノや空間のシェアに対するニーズも高まっており、多様化する都民の価値観に対応する方策の一つとして空き家を活用することも考えられます。(図4-3)

図4-1 退職希望年齢



(資料)「高齢者の健康に関する意識調査結果」(平成19、24年 内閣府) から東京都作成

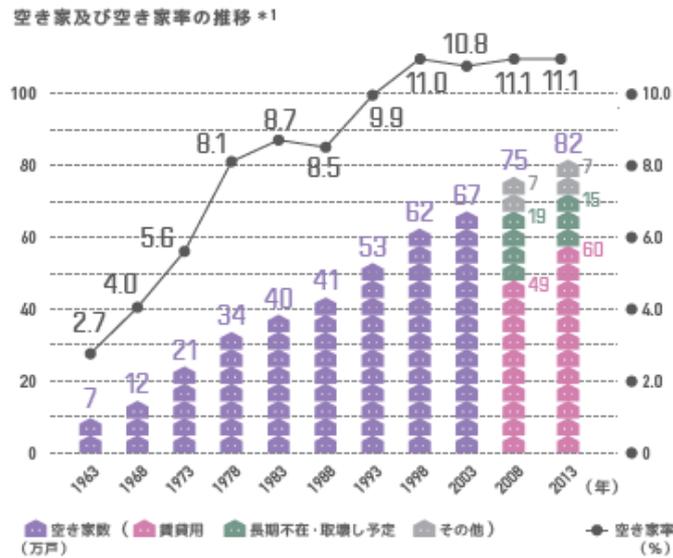
図4-2 共働き等世帯数の推移



1. 昭和55年から平成13年までは総務省「労働力調査特別調査」(各年2月、ただし、昭和55年から57年は各年3月)、平成14年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)」より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する。
2. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯。
3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦共に非農林業雇用者(非正規の職員・従業員を含む。)の世帯。
4. 平成22年及び23年の値は、若手県、宮城県及び福島県を除くための結果を示していない。

(資料)「男女共同参画白書 平成28年版」(平成28年5月 内閣府) から東京都作成

図4-3 東京都の空き家数及び空き家率の推移

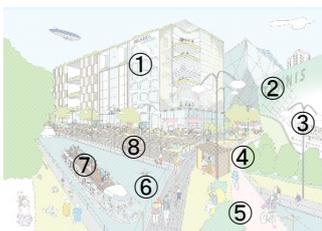


(資料)「住宅・土地統計調査」(平成25年 総務省)から東京都作成

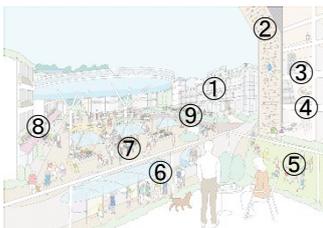
パースの解説

キープラン

解説



- ①国際ビジネスパーソンが快適に暮らせるサービスアパートメント
- ②観光客でにぎわう近代芸術の美術館
- ③誰もがアクセスしやすいスポーツ施設
- ④地下鉄駅間を無人で運行する便利なデマンド交通
- ⑤緑と水を感じながら回遊できる歩行者空間
- ⑥カヌーを楽しめる運河
- ⑦水辺のにぎわい施設としても機能する船上レストラン
- ⑧開発に併せて創出された水辺のテラス



- ①計画的に更新し大事に長く使われ続ける公的住宅
- ②壁面をボルタリング*が楽しめるようにリノベーションした建物
- ③テレワークも可能なSOHO*
- ④2戸を1戸にリノベーションしたゆとりある居室
- ⑤建替えて敷地を統合し緑の共用空間を生み出したマンション
- ⑥好きな時間に利用できるデマンド交通
- ⑦朝採れ野菜や趣味の工房の作品を販売しにぎわうマンション
- ⑧屋上や壁面が緑化された建物
- ⑨空室をリノベーションした福祉施設

戦略 5関連 利便性の高い生活の実現と多様なコミュニティの創出

身近な暮らしを支え合うコミュニティを基礎とした集約型の地域づくりを進め、少子高齢・人口減少社会においても、都市経営コストの効率化を図りながら活発な都市活動を実現します。



(生活や移動の利便性が高い区部中心部や多摩地域の主要な駅周辺)

鉄道が高架化され、利便性や安全性が向上した主要な駅周辺には、病院や、スーパーマーケット、スポーツジムなどの多様な機能の集積が進んでいます。

駅近くのシェアオフィスでは多くのビジネスマッチングが行われ、新たな価値が生まれているとともに、職住が近接したゆとりある働き方を求める人が、充実したフィーダー交通を使い便利な暮らしを送っています。

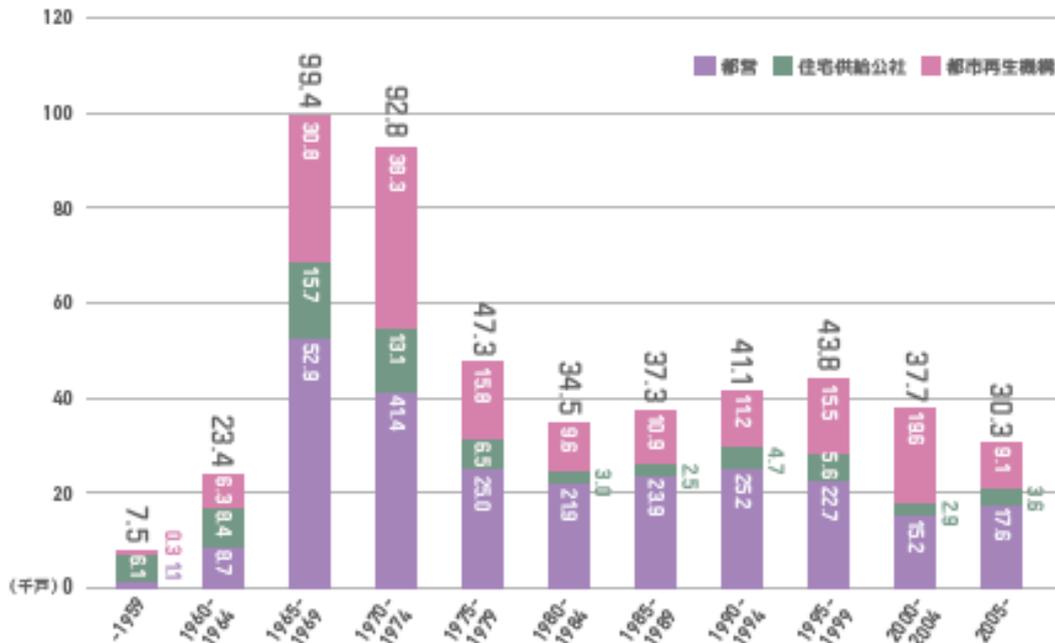


(余暇や趣味を満喫できる駅から離れた地域)

少子高齢化や人口減少が顕著になった地域では、都市機能の再編、集約によりメリハリのある市街地が形成され、二地域居住やアトリエなど、余暇や趣味を楽しむゆとりのある生活が実現されています。

土砂災害等、災害のおそれのある区域では、安全な区域への居住の誘導が進み、自然を活用したアウトドアやスポーツを楽しむ人でにぎわうとともに、古民家等をリノベーションした施設では、観光客が地域の特産品を楽しんでいます。

図5-2 供給時期別にみた大規模団地の状況

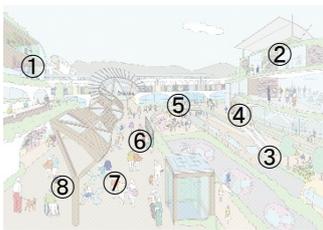


(資料)東京都住宅供給公社、都市再生機構データ等から東京都作成

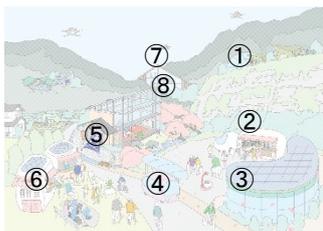
パースの解説

キープラン

解説



①主要な駅の近くで商業施設や病院などが複合化した建物 ②屋上や壁面が緑化された建物 ③自動運転技術を活用した次世代交通システム※ ④歩行者空間など公共空間と一体的にデザインされた建物 ⑤高架下を活用した商業施設 ⑥ニーズに応じた情報を提供するデジタルサイネージ ⑦無電柱化が進み歩きやすく美しい歩行者空間 ⑧多摩産材を活用した工作物



①かつての住宅市街地で自然を楽しめるグランピング※ ②貨客混載※の取組を促進する移動販売車 ③空き地跡地を活用したコミュニティ空間 ④身近な駅と住宅地の移動を支えるデマンド交通 ⑤店舗にコンバージョンされた空き家 ⑥太陽光発電を活用したサイクルショップ ⑦山中の構造物の点検を行うドローン ⑧古民家をリノベーションしたサテライトオフィス